

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 北九州市立沼 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思っております。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

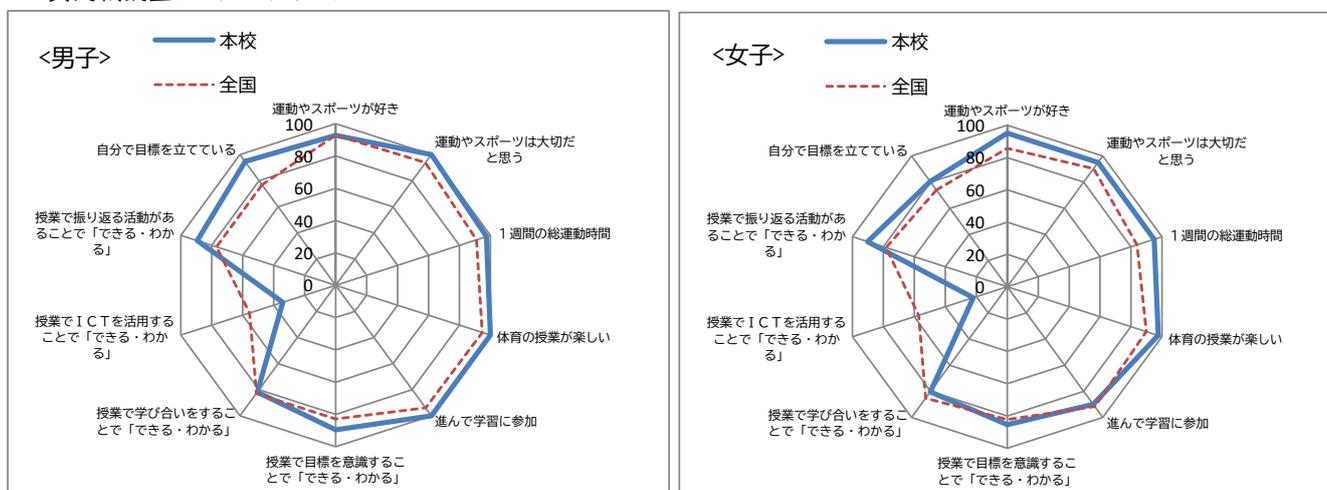
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.13	19.00	33.98	40.60	46.92	9.48	151.13	20.52	52.59
本市	16.30	19.17	34.49	40.75	49.29	9.48	152.47	21.39	53.38
本校全国平均以上の種目	○	○	○		○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.01	18.05	38.45	38.73	36.80	9.71	144.29	13.22	54.28
本市	16.35	18.36	38.88	38.78	39.26	9.70	145.97	13.51	55.18
本校全国平均以上の種目	○	○	○		○	○	○	○	○

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

1週間の運動時間が60分を越えている割合が全国平均、北九州市の平均を大きく上回っていた。日々運動に親しむ習慣が体力テストの結果につながっている可能性が高い。男子に関しては地域のスポーツにクラブに入っている割合も平均を大きく越えていることも運動時間が大幅に上った要因である。ICTの活用について大幅に下回っていることが大きな課題となっており、新たな取組や活用方法を検討していくことが急務である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

調査結果よりほぼ全ての種目で全国、北九州市の平均を上回ることができた。年間を通して運動量の確保や縄跳びを用いた導入の工夫などが要因と考えられる。反復横跳びの数値が平均を下回ったため、俊敏性を鍛える導入での補助運動や年間を通じて体力向上プログラムのさらなる活用などが必要だと感じる。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

体育委員会を中心に縄跳び強化月間を企画した。縄跳びカードを用いて点数化し、児童の意欲づけを行った。また体育委員会の児童による低学年への縄跳び指導の場も設けた。教える側も、教わる側も互いに高め合うことができた。取組終了後も昼休みに縄跳びの練習をする姿が見られた。